農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

由布市長 相馬 尊重

市町村名 (市町村コード)	大分県由布市 (442135)
地域名 (地域内農業集落名)	東家深谷 (東家深谷)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年2月20日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

中山間組織を中心に経営している。その他の農業者は、主に水稻を栽培しているが高齢化しており後継者も不足している。地域内で主に栽培している作物は稲作である。現在取組を行っているものは鳥獣被害防止対策、有機・減農薬・減肥料栽培、農地の保全・管理である。地域が抱える課題として、農業者の高齢化、農業者の減少が挙げられる。これらの課題の原因や理由として主に挙げられるのは、後継者の不在である。
主な作物:水稻

(2) 地域における農業の将来の在り方

低コスト化を図り、地域の中心となる経営体に積極的に集約することを目指す。また、中間管理機構を通じた農地の貸付も積極的に検討していきたい。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	21.7 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	21.7 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
中山間組織を中心となる経営体として位置づける。当面は現状維持していくが、今後は低コスト化を図り、離農者が出た場合は中心となる経営体に農地を集積し、耕作放棄地にならぬよう保全に努める。また、新規就農の確保を目指す。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける。
(3) 基盤整備事業への取組方針
予定なし。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
ゆふ農林業サポート人材バンクとも連携して確保・育成を進める。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
予定なし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	
【選択した上記の取組方針】				
①鉄柵、電気柵等の設置及び点検、補修等の管理を行う。 ②畜産農家と連携し、堆肥を活用した減農薬に取り組んでいる。 ⑦中山間組織を中心に、共同で法面や耕作放棄地の草刈りを行う。				